

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	三協グループ(株)介護事業部 第2グループホーム「やすらぎ」
(ユニット名)	寿庵
所在地 (県・市町村名)	大阪市港区弁天5-12-7
記入者名 (管理者)	落合 美養子
記入日	平成 20 年 12 月 4 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、職員を始めてとして、毎日の生活の中で「笑顔」があふれ、又、地域に根ざした、その人らしく・楽しく・健康な生活を送る為、「気づき」の出来るケアと考えた理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	額に入れ、全職員が意識できるように、目にする場所に掲示している。また、毎朝朝礼時にスタッフ交代制にて理念の読み上げをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族様面会時等に記入して頂く「面会簿兼意見書」に「理念」を記入して目に触れる様にしている。また、玄関壁に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関に花壇やウェルカムボードを設置、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。公園掃除や散歩などで挨拶をし、日常的に付き合える様努めている。また、それらにより馴染みとなった、地域の子供達も遊びに来て頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、盆踊り、敬老会等の行事に参加させて頂き、地域の人々との交流に努めている。又、町内班長会議等に参加させて頂き、より広く地域の方々との交流できる様に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	港区グループホームネットワークや、運営推進会議にて交流を図り、当ホーム主催の行事に地域の方々の参加を提案している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングにて評価を実施する事への理解と意義を職員全体に浸透するように努め、また、評価された事はいち早く実践できるように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、報告や率直な意見を頂き、評価後の報告もさせていただき意見を求めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時には、市の支援相談員の方の所に出向き交流を図ったり、疑問等をTELにて聞いて確認している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	安心サポート及び後継人制度の利用を考え、関係者と話し合い、及び地域包括センターと連携をとっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼や会議等にて新聞・TV報道での事例を読み上げ、職員への意識を図っている。また、事業部研修制度を活用して研修を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分話し合いを行っている。又、重要事項説明書を説明すると共に同意書に署名を頂いている。また、個々の状況にあわせその都度、話し合いを持つように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様の話に耳を傾け、又気軽に話せるように努めている。また、会議等で職員間の話し合いを行い個々のケアに満足感を持ってもらっているのかを、その都度検討している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、1ヶ月間の熱型(バイタル)表及び主治医、やすらぎよりの便りを送付している。また、必要時にはTELにて連絡・相談・報告に努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に面会簿兼意見書箱を設置している。又毎月、報告書を送付していつでも意見等を言っていただけるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議等やその都度意見を聞ける様に声掛けを行っている。また、「トライカード」制度を設置して、いつでも、どの職員からでも提案や意見を出せるように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況、状態の変化やイベント等がある時は、職員の増員で対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の固定化をして移動は最小限に留めている。勤務体制や給与体制にも配慮し、毎月「コンピテンシー」を提出してもらいモチベーションアップを図り、やりがいのある仕事ができるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部セミナー研修等を積極的にを取り入れ、研修後に内部にて発表・報告を実施している。また、内部スキルアップ研修委員会を設置し定期的に内部研修を実施及び発表会を行っている。その他、介護福祉士、ヘルパー2級の実習生受け入れを行い職員の活力となるように努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区ネットワーク、大阪市ネットワークとの交流で情報交換等を行っている。また、外部グループホームとの管理者を通じて職員の1日交換研修を実施し、質の向上及びモチベーションアップを図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は個別面談を行っている。また、歓迎会や忘年会等で不定期ではあるが、親睦に努めている。管理者は職員の休日希望日や諸事情での都合や悩み等を聞き、想いが叶うように工夫し実行している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者及び職員の実績や勤務状況を把握している。また、意見をどんどん取り入れ、職員の想いが出来る限り反映できるように制限や強制等はせず、積極的に耳を傾けてくれている。また、「サンクスカード」「トライカード」制を活用して職員一人ひとりの「気持ち」や「やる気」をひき出そうと工夫してくれている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴の姿勢を心掛け、入居者様を「よく知ろう」という取り組みに努め、また、家族様よりこれまでの生活履歴等の情報を記入頂いたり、細やかな話し合いを持ち、出来る限り、自宅にいた頃と同じ様に生活していけるよう、また、その人らしく生活出来るように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に充分な話し合いを行い、詳細な事も出来る限り柔軟に対応していけるように努力している。又、入居後も必要に応じてその都度、面会時やTEL等での対話の機会を作っている。また、なるべく家族様の負担軽減を図れるように柔軟な姿勢で対応できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズをしっかりと受け止め、必要に応じて、事業所として出来る限りの対応ができるように配慮している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず見学をして頂き、当ホームの難点などを良く話し合い理解をしていただき、かつ、他のホーム等と比べていただき、納得された上で入居決定して頂けるように努めている、また、入所時の持参物も馴染みの物を持って来て頂き、入居者様の混乱を出来るだけ無くせるように理解をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所前の生活や本人の思いを活かせるように、出来る事はしていただき、出来ないことへの支援にとどめ、入居者様の思いと共に添えるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様の想いや関わりを保てるように、毎月、紙面で写真や生活状況の報告や、面会時及びTELにて情報の共有に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも面会に来て頂けるようにしている。又、遠方でなかなか来られない家族様への定期的な紙面による情報発信に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や食べ物屋さん、お店など、また、墓参り、旅行、外泊等、いつでも自由にご家族様や友人など行けるように、一切の制限をしない配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握し、入居者様同士の関係が上手くいくように職員がかけ橋になるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人やご家族様の意見や想いをよく聞き、又、行動や言動、表情などの表現把握に努め住み易く、意欲的に日常生活が送れるようにその都度、検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様にご家族様より生活歴を記入頂き、家具等、馴染みの物を使って頂く様にお願いをしている。又、会話や表情などからも把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のタイムテーブルを記入し、全職員が現状の把握をできるようにしている。また、別途申し送り表・受診チェック表や口頭でも申し送り、把握できる様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回の会議にて職員同士の話し合いを行い、ご家族、主治医等の意見も取り入れ、その人らしい暮らしが出来るような内容をプランに組み入れるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング・カンファレンス等の結果、必要に応じてその都度、職員間での話し合いを行い、ご家族、主治医の意見も取り入れながら計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや日誌、1日のタイムテーブル(利用者様別)に記入している。また、その都度、話し合いや情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度、同事業所内のデイサービスや居宅サービス等との情報交流を図り、有効に活用・協力してもらえ体制にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域運営推進会議や町内班長会議を通じて交流を図るよう心がけている。しかしまだ、十分ではないので今後さらに努力して、もっと地域に根ざしていきたい。	○	少しずつ、地域の方と理解を得られるように、ネットワークを広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて外部からの理美容サービスや歯科往診サービス利用に取り組んでいる。今後は「あそびりてーしょん」なども出来るように視野に入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	安心サポートや後見人制度等、必要に応じて地域包括センターの力をお借りして、その都度協働している。その他、個別に問題点など事業所内での解決が困難な事例が発生した場合は相談させていただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族様の意向を確認・協議して、かかりつけの主治医による定期受診を勧めている。やむなく、事業所協力機関の往診医を希望される場合は同意を得ている。また、希望HPへの受診をされる場合でも本人・家族様の意向を叶えるように努め、職員配置にも配慮し病院受診等にも応じれるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、往診医が脳神経外科・内科・リハビリテーション専門医なのでその都度、相談や状態に応じた対応や治療を受けられるように支援していただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同事業所内のデイサービス担当看護師に週1回定期訪問していただき、入居者さまとなじみになってもらい健康管理や医療的な相談や治療を伴う場合などの連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時にサマリーを作成して、入院先との情報交換に努めている。また、必要に応じてその都度TEL連絡をし連携を図っている。 また、電話連絡をするなど、情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護職員では難しい常時医療処置行為等の継続がなければターミナルケアまで行いたいと考えている。(現状はその都度家族様と協議している。)		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの勉強会及び職員間での検討を行っている。また、必要に応じて家族様との話し合いを持ち、検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族様や関係者と連携を取り合い、情報交換をし、ダメージを防ぐように努めている。また、退所時にはサマリーを作成し情報交換に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的に入居者様の誇りやプライバシーを配慮した声かけに注意している。また、個人情報保護の観点から職員の入社時研修時にて取り扱い注意の徹底をし、退社時には業務中知り得た個人情報の漏洩禁止項目に署名、捺印を貰い徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定はなるべく入居者様ご自身でもらえる様に支援している。また、意思表示の出来ない方であっても表情や行動等の全身での反応を注意深くキャッチし希望や願いを把握していくように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせた日常生活を過ごしてもらえる様に努めている。意思表示の困難な方でもその人の想いを汲みとり、その人らしく過ごせるように職員間での協議を必要に応じて行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に訪問美容に来ていただいている。又、ご家族様と一緒にかかりつけの美容室に行っていたりしている。また、本人の好みを把握できるよう声かけや行動などにも配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食利用しているが、手作り食事日を定期的に設け、献立の選択や準備・買い物なども含め楽しみがもてるように配慮している。また、日常的に配膳・片付け等、個々の出来る範囲内で役割を持って頂き、他の利用者や職員との関係づくりに配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師やご家族様の制限がない限り、入居者様の希望に合わせて支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ、トイレにて排泄していただけるように、さり気なく声掛け、誘導を行ったり、個々の排泄パターンを把握するように努めている。特に日中はなるべく、リハパン使用をせず、生きる意欲や自信の回復、身体機能向上につなげていけるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その都度声掛けを行い、入浴実施の意思確認をし、本人のタイミングに合わせて入浴していただけるように努めている。拒否される場合なども無理強いせず、声かけなども工夫し気持ちよく入浴していただけるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に就寝じかんを設けず、個々のリズムに合わせて眠ってもらう。一人ひとりの睡眠パターンを把握するように努め、睡眠が出来ない方の場合などは日中の生活習慣やリズムなどについての検討をその都度行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする事や興味のある事を進んで出来るよう支援したり、役割や楽しみ、気晴らしの出来るような支援を心がけ、その都度職員間で検討している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム側ではお金の管理はしていないが、ご家族様よりお小遣いとして貰われている方は、持って頂き買い物などをした際は小遣いノートに職員同伴のもと、記入頂き、領収書は職員が預かり、後日家族様へ送付したりと、個々に管理方法は家族様と協議している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	不定期ではあるが、買い物、外出、散歩等を心掛けている。また、気晴らし支援として屋上やエントランスなどでお茶会や軽体操なども出来るように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	不定期ではあるが、遠足にでかけたり、個別の外出に努めている。また、家族と共に外出できるように連携に努め楽しみを持っていただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限などはしておらず、個別やご家族様の状態に合わせて対応している。また、必要時には、いつでもTEL出来るように家族様との連携を図っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常時、いつでも訪問して頂き、ゆったり過ごしていただける様、努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また、「身体拘束についての研修会」を行って職員への意識づけに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路は常に工場のリフト車が動いている為、入口エントランスは安全の為、電子ロックされているが玄関は開放している。また、階段等には転落・転倒の危険防止のため、家族様に了解の上、施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず定期的に巡回を行っている。また、ユニット間の連携を持ち所在や様子確認を密にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々にあわせて対応しており、不都合が生じた場合などはその都度、話し合い検討している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	社内にて応急対応研修会を実施しロールプレイングを行ったり、事故・ひやりはっと検討会を実施し、朝礼・会議などにおいても再発防止に努めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを設置している。また、応急対応実践研修を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを設置している。又地域運営会議にて協力を得られるよう働きかけている。年1回は消防署との連携を図り訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時よりご家族様にはリスクについての説明を行っている。又問題点が明白な場合や予測されるリスクはその都度、家族様と話し合う機会を持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のタイムテーブル、日誌、申し送りノートや朝礼時に口頭にて共有している。又異常があればVS測定を行って早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診チェック表及び服薬チェック表に薬の用法や副作用等の書かれた用紙を設置している。また、往診時に主治医に情報提供し支持を仰ぎ、変更があれば申し送りノートや朝礼にて徹底を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因や対策などの検討を会議にて行っている。軽体操等にも努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔洗浄の徹底を心がけている。寝る前のうがい等は毎日実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日熱計表に記入している。また、定期的な体重測定を実施し、かつ個々の状態に合わせた対応を心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム出入り口に職員をはじめ訪問者全員に手洗い・うがいの徹底協力をお願いしている。又職員用ロッカーに資料や注意を促すリーフレットを掲示したり、その都度、朝礼時や会議時に資料配布したり、口頭での伝達等を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗い及び使用済みの器具や布巾等は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様が外出前や来客者がちょっと腰掛けられるように、ベンチやテーブルを配置している。また、入り口に花のプランターを置きあたたかさが出るように演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備、装飾品等家庭的な雰囲気が出せるよう心がけている。特に、施設らしくないように普通の家庭のような生活観が出るようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入り口のベンチ等や屋上でゆったり座れたり一人になれる空間を考慮したり、ソファやイスの配置にも気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきて頂けるよう、家族様と相談している。又危険と判断される物以外持参物に制限をしていない。配置等も家族さんと一緒に自由にさせていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の窓の開閉は毎日行っている。又温度調節等は利用者や天候、気候によってその都度行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターを設置している。又要所(ロッカー、トイレ、浴室等)に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の持っている力を活かしながら、生活移動導線などは十分配慮して、安全で安心して暮らせるように心がけている。また、混乱を起こさないように一人ひとりの行動などに十分注意をはらい、想いを認識できるよう心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入り口に花壇や屋上に植木鉢を置き水やりや日向ぼっこが出来るように努めている。また、エントランスや屋上に、お茶会やバーベキューなどを楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)